



大学における応答型講義づくりの試み

渡部, 昭男

(Citation)

大学評価学会第10回全国大会予稿集:71-75

(Issue Date)

2013-03

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90001725>



大学における応答型講義づくりの試み

渡部 昭男（神戸大学）

キーワード：応答型講義、楽しい・やり甲斐、発達保障、青年期教育

はじめに

「一方的に教授する講義がどうも楽しくない」、しかし「橋本メソッド¹」を導入する勇気もない…という方々への提案。すなわち、「教員が講ずる講義スタイル」をベースにした上で、少しでも改善する方策→「少しでも楽しい・やり甲斐のある講義」へ。

I. 共同講義での試み（鳥取大学 2007 年度～）

【①渡部昭男・山根俊喜・田丸敏高・奥野隆一・一盛真・小林勝年・太田美幸（2008）「学びへの導入科目としての「地域教育学入門」の取り組み：2007 年度における授業実践のまとめ」『2007 年度科学研究費補助金（基礎研究 B 課題番号 17330167）研究報告 地域の教育福祉諸関連の連携に関する総合的研究—新しい専門性の形成をめざして—』、pp.42-68】²

- 1）科目「地域教育学入門」鳥取大学地域学部地域教育学科の1年次必修（約50名）。
- 2）青木久子・磯部裕子・大豆生田啓友『新しい教育原理教育学への視座（第2版）教育へのまなざしの転換を求めて』萌文書林をテキストに、渡部をチーフに数名が担当。
- 3）「感想カード」の導入

07年度から「個人カード」を導入。「個人カード」はB5判1枚(表面)で、講義の月日、学籍番号、氏名、「A 前時の復習事項／B 次時の予習事項／C 講義の感想や意見／D 来週までに復習・再確認したり発展的に調べてみたい事項」という欄が設けである。受講生は講義前にA・B欄を必ず記入して持参し、講義終了後にC・D欄に書き込み、渡部研究室のカゴに毎回提出する。提出された「個人カード」により、チーフの渡部は受講生の出席状況、予習・復習の様子、講義への感想や意見などを、15回全体を通じて把握することができた。必要な場合には次時に、質問へ回答したり、理解不足や誤解事項には説明を補うなどした。「個人カード」は講義担当者には必ず読んでもらうとともに、反響が大きかった回に関しては担当者全員に回覧。

※当初の「ねらい」は応答よりも「出席管理」と「リレー式の諸講師間の連携・情報交換」。

【②渡部昭男・竹川俊夫・土井康作・野田邦弘・岡田昭明（2009）「初年次必修科目「地域学入門」における地域学部新入生の変容—2009 年度における授業実践のまとめ—」『地域学論集（鳥取大学地域学部紀要）』6(2)、pp.69-104】

¹ 大学評価学会の橋本勝副代表理事が提唱する授業改善メソッドで、多人数の科目において班分け・討議などをまじえて進める「多人数ゼミ」。「橋本メソッド」でネット検索すると34万件もヒットし、「教授技術「匠の技」伝承プロジェクト」(<https://www.facebook.com/TAKUMInoWAZA>)などが閲覧できる。参考文献としては、清水亮・橋本勝・松本美奈（2009）『学生と変える大学教育』ナカニシヤ出版、清水亮・橋本勝（2012）『学生・職員とつくる大学教育』ナカニシヤ出版、など。

² 鳥取大学附属図書館 HP の「研究成果リポジトリ」のサイトから入手可能。

【③渡部昭男・竹川俊夫・足立和美・鶴崎展巨（2010）「初年次必修科目「地域学入門」における地域学部新入生の変容（第2報）—2010年度における授業実践のまとめ—」『地域学論集（鳥取大学地域学部紀要）』7(2)、pp.157-196】

- 1) 科目「地域学入門」鳥取大学地域学部の1年次必修（約190名）、階段状の大講義室。
- 2) 渡部をチーフに4学科から代表を選出してチームで実施。15回を「第1部：「地域学」とは何か／第2部：地域の課題と地域連携／第3部：「地域づくり」の実践」の3つのパートから構成。90分の授業を、「15分〔受講者代表による当日テーマ・講師に係る事前調査の発表〕—60分〔講師による特別講義〕—15分〔質疑応答&感想カードの記入〕」に構造化し、受講者全員による討論を2回（討論と総括）設けて進めた。

- 3) 「応答方式」は「青年期教育」の発達保障課題に合致するのではないかという予感。

出所：文献②p.98、p.102

○予習事項の発表、討論会、地域連携活動など参加型の進め方について

- ・いきなり、授業初めの発表に当たった時は、とても驚きましたが、当たってみて良かったと思いました。（地域政策）
- ・ディスカッションはとてもおもしろい。様々な人の意見を聞くことができるので、回数を増やすべきだと思う。（地域政策）
- ・ディスカッションが楽しかったです。もう少し回数を増やしてほしい、そう思えるくらいに。（地域政策）
- ・講義内容について実際に体験できる場があればと思いました。（地域政策）
- ・最初は前に出て発表するのは嫌だなあと考えていたけど、実際に当たって前で発表する時にインタビューなどをして、授業では聞けないような話ができたりして、とても良い経験になったと思う。（地域教育）
- ・先生の個人的な意見や学生の考えを具体的に話し合えるので、ディスカッションがあるのがいいと思う。（地域教育）
- ・討論をもう少しふやしてもいいと思う。（地域教育）
- ・全体ディスカッションは、他の学科の人の考えを聞けたり、自分とは正反対の意見などが聞けてためになるし、おもしろいです。もっと全体ディスカッションを増やして、意見交換の場を作ってほしいです。（地域教育）
- ・ディスカッション形式の授業がとても良かったです。（地域文化）
- ・学部や学科でまとまって地域連携活動する機会があるといいんじゃないでしょうか。迷って参加できなかったっていう人も多いと思うので。（地域文化）
- ・中島さんのように、学生にたくさんどんどん質問する授業の方が、参加しやすくて良かったです。（地域文化）
- ・学生の発表は他の意見も聞くことができて良いと思う。（地域環境）
- ・討論は楽しかった。（地域環境）
- ・学生の発言できる環境が整っていて、いろいろな人の意見が聞けて良い勉強になった。（地域環境）
- ・ディスカッションを2時間続けにしてほしい。その方がディスカッションの内容が深まると思う。（地域環境）

なお、学士課程答申にはないが独自に加味したのは、「青年期教育」の視点である。確かに、社会人の学生や聴講生、公開講座の一般受講生もいるが、大多数の受講生は20歳前後の「青年期」にある。「青年期」は「第二の誕生」「モラトリアム」「疾風怒濤」などのキーワードで代表されるように、人間の生涯における独自のライフステージであり、自己形成において重要な意味をもったライフステージでもある。2009年度の「地域学入門」における参加型・ゆさぶり型の授業展開の基底には、「子どもから大人へ」「学校から社会へ」という二重の移行支援を含む「青年期教育」を創出したいという思いがあった。今後さらに深めていくべき観点6）といえよう。

Ⅱ. 教職科目での試み（神戸大学 2011 年度～）

【④渡部昭男・可児みづき・亀澤朋恵（2012）「TA 参加による応答型の講義づくり—博士課程院生へのプレ FD の試み—」『教育科学論集』（15）、pp.25-36】³

【⑤榎景子・渡部昭男（2013 予定）「博士課程後期課程におけるプレ FD—21012 年度後期「道德教育論」の TA 経験から—」『教育科学論集』（16)】

- 1) 教職科目の前期「教育政策」神戸大学発達科学部を主に全学の 2 年次以上（約 250 名）、後期「道德教育論」神戸大学発達科学部人間形成学科の 2 年次必修を兼ねる（約 180 名）。
- 2) 大学院博士課程後期課程の大学院生に対して、TA として「応答型講義づくり」に参加してもらう中で事前の FD 開発を進め、大学教員準備 preparing future faculty を行う。受講生が 100 名を越える科目では担当教員一人で「カード」に目を通して毎回応答する時間的余裕がない。そこで、応答型講義の醍醐味を TA 院生に体験してもらう中でプレ FD も進めようという意図である。
- 3) TA 院生の成長が確実にみられるとともに、受講生との応答も進むことを確信。

Ⅲ. 教養教育での試み（神戸大学 2011 年度～）

【⑥渡部昭男 [2012] 「全学共通教育における応答型講義づくりの試み—教養原論「教育学」（2012 年度前期）の授業実践—」『大学教育研究』（21）、pp.107-122】

- 1) 全学共通教育科目「教養原論・教育学」（受講定員 100 名）
- 2) シラバスの概要

到達目標：

- 1) 自らの個人的な教育体験を、テキストに基づく 15 テーマで振り返り、共に共有しうる共通教養として新たに組み直す。
- 2) 日本の教育をめぐる論争点について知り、理解する。
- 3) 日本国憲法が教育に関してどのような考え方を採っているのかを理解し、自らの立ち位置を再確認する。
- 4) 受講後には、マスコミで報じられる教育問題に関して、その憲法学的な背景を含めて理解できるようになる。
- 5) 略

【教科書】

- ①米沢広一（2011）『憲法と教育 15 講（三訂版）』北樹出版
- ②渡部昭男（2006）『格差問題と「教育の機会均等」』日本標準

【授業の概要と計画】

- 第 1 回：ガイダンス、教育権論争（第①テキスト第 1 講）
第 2 回：未成年者の人権享有主体性（第 2 講）、児童の権利条約（第 15 講）
第 3 回：生徒の自己決定権（第 3 講）
第 4 回：日の丸・君が代と学校（第 4 講）
第 5 回：宗教と公立学校（第 5 講）
第 6 回：生徒と政治（第 6 講）

³ 神戸大学附属図書館 HP の「学術成果リポジトリ」サイトから入手可能。文献④⑤もアップ予定。

第7回：教育情報の本人開示と公開（第7講）
第8回：格差問題と「教育の機会均等」（第②テキスト）
第9回：中間レポートの書き方
第10回：教科書の検定・採択・給付・使用（第8講）
第11回：学校事故の賠償と防止（第9講）
第12回：親の教育の自由（第12講）
第13回：教師の「教育の自由」（第13講）
第14回：私立学校と憲法（第14講）
第15回：アンケート、期末試験

3) 実践例

- ・第1～3回目の早い段階で一定の講義スタイルを確立し、筆者なりの講義文化を浸透させることを心がけている。すなわち、講義といえども一方的に講ずるのではなく、受講生も巻き込み、参画する楽しさと責任を共有するという講義文化である。
- ・具体的には、1回の対面授業90分を「前回のカード紹介15分、講話60分、ビデオ視聴15分（視聴中にカード記入）」というように配分し、「カード」を媒介にして「講話&ビデオ視聴→カード記入（意見・質問・感想）→受講生への応答」というサイクルを創った。
- ・また、テキストを指定し、参考書や関連URLを紹介し、レポート課題を課すなどして、対面授業に加えて各自の自修が進むように配慮した。
- ・まず、始業前の5分程度を使って、当日の学習予定についてあらかじめ板書を行っておく。右端に「前時 第〇講タイトル／カード紹介」、中央に「本時 第〇講タイトル／章節項目の箇条書き／視聴予定ビデオのタイトル」、左端に「次時 第〇講タイトル」という様式である。
- ・2012年度に用いた「カード」（B5判）は、巻末に別掲。カード紹介を幾度か繰り返すうちに、受講生も「カード」がどのように活用されるのかというイメージを掴み、講話&ビデオ視聴中に書き込む要領を覚えて記載もスムーズになる。そして、応答の醍醐味が感じとれるようになると、記載内容も良く考えられたもの、責任あるものへと変わっていく。回収後に講師控室にてさっそく出欠をチェックし、次回に採り上げる特徴的なカードをおよそ20件選んだ（毎回の出席約80名の4分の1）。手早く読めば、15分程度で紹介できる分量である。
- ・応答の具体例は分科会において例示。

4) 受講生の評価

- ・受講生アンケート（5件法）によると、「応答型の講義」に関しては、「1)満足」「2)ある程度満足」の小計が89%に上った。
- ・自由記述をまとめた。

カード記入で思考の整理になった、自分の考えをまとめる練習ができた、他の人の考え・異なる意見・気づかない視点からの意見・考えが及ばなかった意見・色々な意見（感想）が聞けた、多様な考え方・新しい見方ができるようになった、考えが広がる、疑問が解決される、復習ができる、意欲的になった、やる気になった、嬉しい、刺激的だった、新鮮だった、等々の肯定的な記載が多くあった。また、「理解が深まる」「分かりや

す(い)」「質問がしやすい」「授業に参加できている感じが(する)」「自分の意見がしっかり読まれていることを確認できる」等々は、地味ではあるが、カード活用による応答型講義づくりのベーシックな意義といえよう。／なお、「紹介されないと…不安に思ってしまう」「書く事項が多くてまとめにくかった」といった指摘もあった。

別掲「感想カード」(自由に模倣して使って下さい)

渡部（発達科学部 A442 部屋）akiowmb@port.kobe-u.ac.jp

2012年度 月 日	火 1 数学 C201	学科（該当を○印） 法12、法・11、文、国、発、済 営、理、医、工、農、海事	学籍番号	氏名
---------------	-------------------	---	------	----

A：導入時の「意見・感想」紹介について：今日の鍵用語 []

B：本時の読義について
（講義を受ける際には、感想にとどめず、以下の3点で整理し、深めるように努めましょう）
【①本時の講義で得た新たな知見を一つ以上】

【②本時の講義への意見や疑問を一つ以上】

【③本時の講義を既習事項や他科目と関連づけてみよう】

C：なんでも感想・なんでも質問（ビデオ視聴などを含む）

*講義終了時に必ず学部別に提出して下さい。

*提出区分は、法 2012、法～2011、文、国際、発達、経済、経営、理、医、工、農、海事。

*このカードで出欠を確認します。要注意～欠席が 1 / 5 を越えると「未履修」となります。